

## 26PW-am002

ギ酸アミド誘導体のHeck型反応の開発と、これを鍵とするインドールアルカロイドの合成研究

○安井 義純<sup>1</sup>, 竹田 寛<sup>1</sup>, 竹本 佳司<sup>1</sup>(<sup>1</sup>京大院薬)

我々は、ギ酸アミド誘導体の遷移金属触媒による活性化に興味を持ち研究を展開している。これまでに、分子内に1,1-二置換オレフィンを持つシアノギ酸アミド **A** (R=H, X=CN) に対してパラジウム触媒を作用させると、シアノアミド化が進行し、ラクタム **B** (X=CN) が得られることを見出している。今回、1,1,2-三置換オレフィン **A** (R=CH<sub>3</sub>) を反応前駆体とする Heck 型反応の実現を目指し、検討を行った。その結果、脱離基 X として塩素原子を有する基質に対して、パラジウム触媒の存在下、塩基を添加する条件で反応を行うと、望むビニルラクタム **C** が高収率で得られることを見出した。本反応の詳細と、これを鍵とするインドールアルカロイドの合成研究について発表する。

